

3つの柱の主な取り組み

2 まちのにぎわいや未来への飛躍に向けた成長戦略の実行

■風力発電関連産業の総合拠点形成

14億7200万円
響灘地区(若松区)の充実した港湾インフラと広大な産業用地を活用し、風力発電関連産業の総合拠点の形成を推進します。

■IT企業誘致促進

1億7000万円
首都圏IT企業などを対象としたサテライトオフィス設置に向けた支援や、投資会社との協調によるスタートアップ企業の支援などに取り組み、民間投資を呼び込み、雇用の創出を図ります。

■東アジア文化都市北九州2020▶21

5億1300万円
ART for SDGsをはじめ、一年を通じて、市内各所で多彩な文化芸術事業を行います。

3つの柱の主な取り組み

3 子育て・教育など誰もが安心して住み続けられるまちづくり

■一般不妊治療費、不育症検査・治療費の助成

1200万円
一般不妊治療と不育症の検査・治療の費用を助成します。

■子ども医療費の助成

31億8000万円
医療費の自己負担額の助成をすることで、子育てにかかる経済的負担を軽減します。

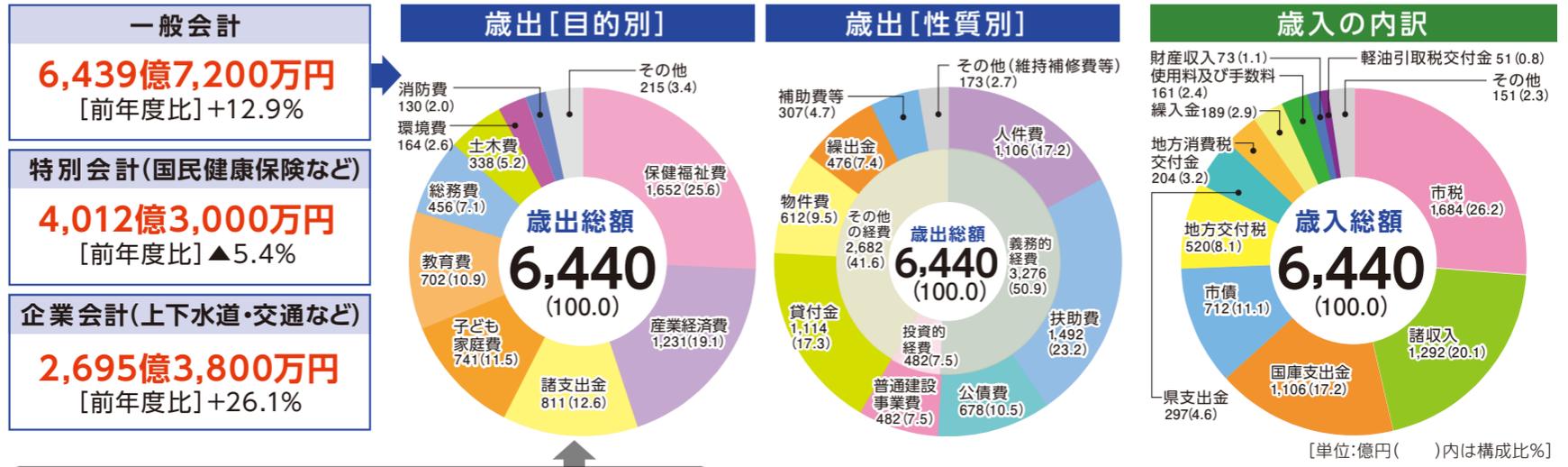
拡充内容
助成対象:(通院)小学6年生まで→高校3年生まで
(入院)中学3年生まで→高校3年生まで
※中学生の通院は令和3年4月、高校生の入・通院は令和4年1月から拡充
自己負担:(通院)中学1年生~高校3年生→1600円/月
(入院)高校1年生~高校3年生→無料

■35人以下学級編制の拡充

8100万円
既に小学1~3年生および中学1年生で実施している35人以下学級編制を、国に先駆けて小学校全学年に拡充します。

令和3年度 **一般会計予算**

予算とは、市の1年間にかかる収入と支出についての見積もりです。今回は、この令和3年度予算のうち、市の基本的な行政サービスに関わる一般会計の予算について紹介します。



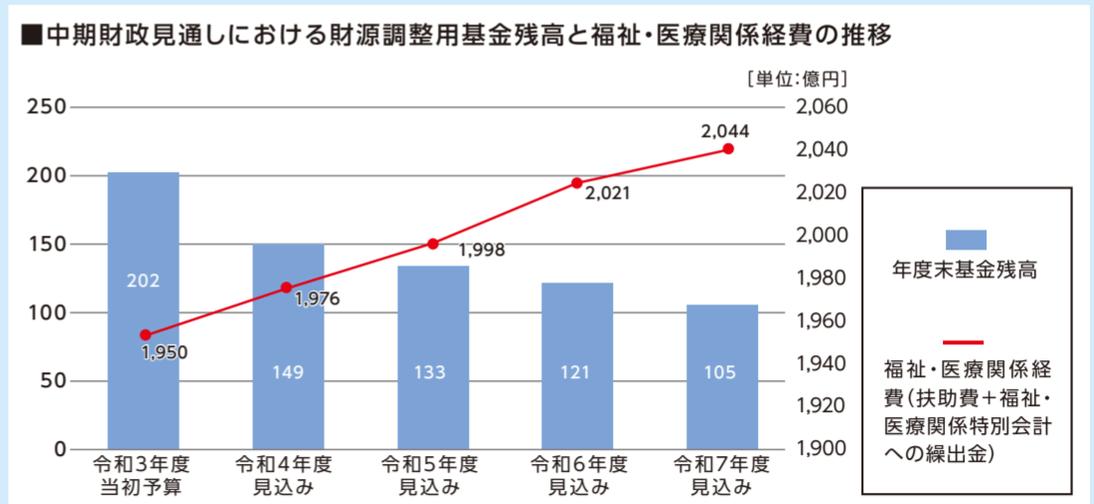
- 保健福祉費: 福祉・健康・医療の充実
- 産業経済費: 産業学術・観光振興
- 諸支出金: 市債の返済など
- 子ども家庭費: 子育て支援
- 教育費: 学校教育
- 総務費: 行政運営、市民活動支援、文化振興
- 土木費: 道路・河川・公園などの整備
- 環境費: ごみ処理、低炭素社会づくり
- 消防費: 消防・救急活動
- その他: 住宅の整備、岸壁の整備など

予算の特徴
令和3年度は、新型コロナウイルスへの対応や中小企業融資の拡充などにより、過去最大となっています。
歳入では、新型コロナウイルスの影響により市税等が大幅に減少する一方で、地方交付税等の伸びを見込んだことなどから、市税等の一般財源総額は、前年度比14億円の減となっています。また、売上が好調な公営競技事業からの繰入金を前年度から30億円増額するなどにより、財源確保を図りました。
歳出では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に引き続き取り組むとともに、市の未来を切り拓き、新たな市民ニーズや行政需要に対応する事業に、予算を重点的に配分しています。

市民1人当たりの予算(一般会計)の内訳

- 一般会計予算を市民1人当たりに換算すると、**約68万円**となりこのように使われます。
- 保健福祉費: 福祉・健康・医療の充実 **17万5千円**
 - 産業経済費: 産業学術・観光振興 **13万円**
 - 諸支出金: 市債の返済など **8万6千円**
 - 子ども家庭費: 子育て支援 **7万8千円**
 - 教育費: 学校教育 **7万4千円**
 - 総務費: 行政運営、市民活動支援、文化振興 **4万8千円**
 - 土木費: 道路・河川・公園などの整備 **3万6千円**
 - 環境費: ごみ処理、低炭素社会づくり **1万7千円**
 - 消防費・その他: 消防・救急活動、住宅の整備、岸壁の整備など **3万7千円**

中期財政見通し 中期財政見通しは、令和3年度当初予算を基礎として、**一定の条件の下で当面5年間の試算を行ったもの**です。今後も福祉・医療関係経費の増加傾向が続くことなどから、市の貯金である財源調整用基金残高の減少が見込まれます。そのため、行財政改革に取り組むとともに、毎年度の予算編成の中で財源の確保や歳出の見直しを行っていきます。



対=対象 定=定員、定数 料=料金、費用 申=申し込み 問=問い合わせ 共=共通の内容 手=手話通訳 要=要約筆記 担=市の担当課 F=FAX ネット=ネット窓口(電子申請)